

事業手法の検討について～これまでの経緯（平成27年以降）～

資料1

時期	内容
平成27年2月4日	旧プール棟天井部材の一部が落下し、旧プール棟を閉鎖。
平成27年6月29日	屋内プールの今後の検討方針について、①プール棟のみ建替え、②スポーツセンター全体を建替えのどちらの方針にするかを平成28年3月までに決定することとする旨を、戸田市ホームページにて公表。
平成27年12月～平成28年3月	戸田市スポーツセンター再整備方針検討委員会を開催。 プール棟のみ建替えし、C棟・G棟は設備改修しながら利用を続ける再整備方針を市に提出。
令和元年6月～令和2年2月	戸田市スポーツセンター改修工事基本計画策定業務委託（改修・解体対象は、C棟、G棟、旧プール棟、弓道場）
令和2年6月	新屋内プール開業（施工期間：平成30年9月～令和2年2月）
令和2年6月～令和4年2月	戸田市スポーツセンター改修工事設計業務委託
令和3年9月	コロナ禍により見通しが不透明な状況であること等から、令和4年10月～令和6年2月に予定していた戸田市スポーツセンター改修工事の着工を先送り。
令和4年1月26日	戸田市議会市民生活常任委員会から、建替えを含めた再検討を求める意見書が提出された。
令和4年3月10日	戸田市スポーツ協会（旧戸田市体育協会）から、建替えについての要望書が提出された。
令和5年6月～令和6年3月	再整備検討資料作成業務委託 →これまで提出された要望書や再整備検討資料を踏まえ、戸田市スポーツセンター改修工事（大規模改修）を中止のうえ新プール棟以外の施設を建て替える方針を決定
令和6年7月～	戸田市スポーツセンター基本構想策定業務委託 戸田市スポーツセンター基本構想策定委員会を開催

事業手法の検討について～令和5年度検討内容～

令和5年度実施検討内容（スポーツ施設のストック適正化ガイドラインに基づく検討）

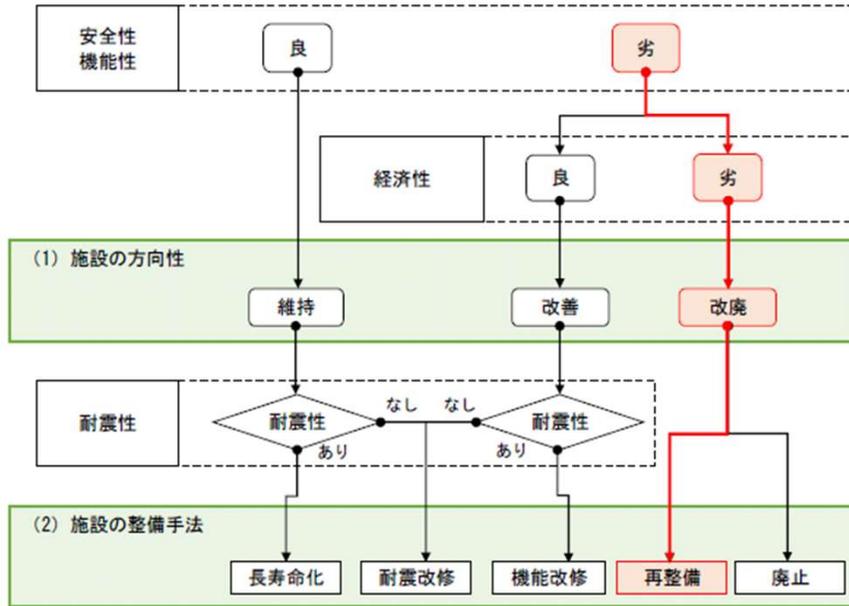


図 3-1 個別施設の方向性の検討のフロー（再掲）

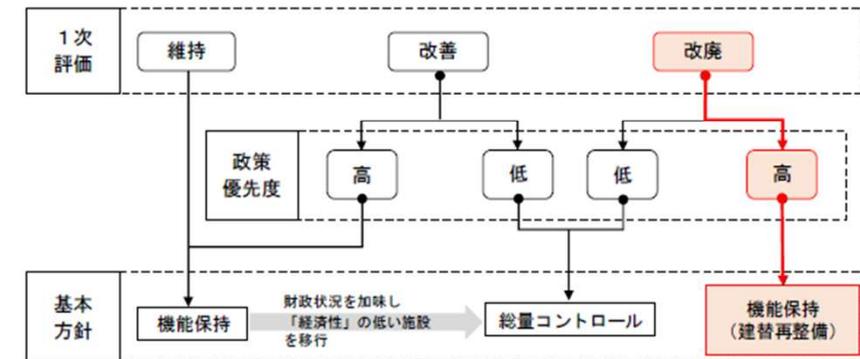


図 4-1 スポーツ施設の基本方針の検討（2次評価）のフロー（再掲）

表 4-3 評価結果のとりまとめ

項目	現況評価	状況	判定
安全性 機能性	安全性	B	劣
	機能性	C	
	法令適合性	B	
	屋外運動施設	C	
	安全対策	A	
経済性	改善コスト	大規模改修未実施	劣
	維持管理コスト	収入に比べ高い。	
	収入	他施設に比べ低い。	
耐震性	耐震基準	旧	問題無
	耐震診断の実施	済	
	耐震改修の実施	済	
施設の方向性	維持	整備手法	長寿命化
	改善		耐震改修・機能改修
	改廃		再整備・廃止

【結論】

ガイドラインに沿って安全性・機能性を評価。続き、経済性を評価し方向性を判定し、改廃となった為、2次評価を行い、再整備という結果に至った。

3. 想定される再整備方針の整理

これまでの整理を踏まえ、本施設の再整備にあたり、想定される方針を整理する。本施設のうちプール棟については、すでに建て替えされていることから、プール棟以外の施設（ゲーム棟・センター棟）について、再整備方針の検討を行った。

現状施設の劣化状況及び機能性、安全性、経済性に加え、施設の利用状況を評価した上で、正式競技が実施可能なトラック整備や、限られた敷地の中で、サービス停止を限定的にするローリング計画等、防災機能の負荷等を考慮した場合、コストよりも付加価値を重視した再整備（建替え）という結果に至った。

また、地域スポーツセンターへの交付金（学校施設環境改善交付金（スポーツ施設（社会体育施設）整備事業）については、大規模改修は対象外であり、新築・改築については対象となる事も評価した。

事業手法の検討について～令和5年度検討内容～

令和5年度実施検討内容 (事業スキームの整理)

(i) 公設公営方式

公共が自ら資金調達のうち、設計、建設は公共が民間事業者に分発注し、施設運営は公共自ら行う方式である。

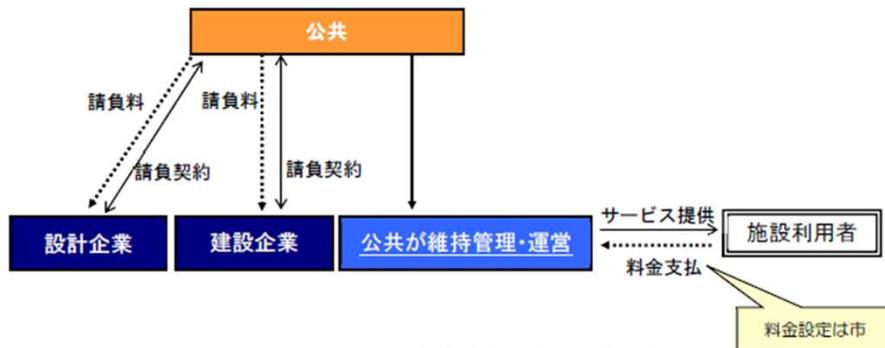


図 7-1 公設公営方式の事業スキーム

(ii) 公設民営方式

①D+B+O方式またはDB+O方式

公共が自ら資金調達のうち、設計、建設は公共が民間事業者に分発注（DB+O方式の場合は設計・建設一括発注）し、維持管理・運営は別途民間事業者に委託する方式。維持管理・運営は単年度または複数年度の委託となる。

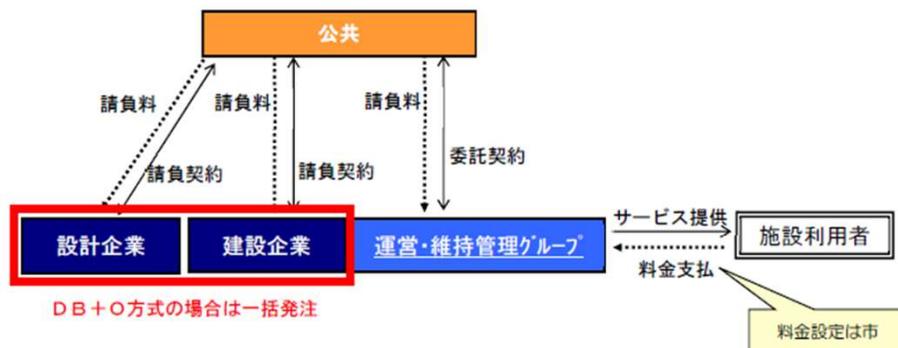


図 7-2 D+B+O方式またはDB+O方式の事業スキーム

②DBO方式

公共が自ら資金調達し、設計・建設、維持管理及び運営を公共が民間事業者に請負・委託で一括発注する方式。設計・建設は設計建設事業者（JV）、維持管理・運営はSPCが実施する。

DBO方式は長期契約となるため、PFI方式同様、出資者の破綻の影響から維持管理・運営を担う会社を隔離するため特別目的会社（SPC）を設立することが多い。なお、DBO方式では長期一括で性能発注するにあたり、②建設工事請負契約（設計施工一括契約）、③維持管理・運営委託契約（包括的業務委託契約）、②③をまとめるための①基本契約により構成される複合的な契約形態になることに留意が必要である。

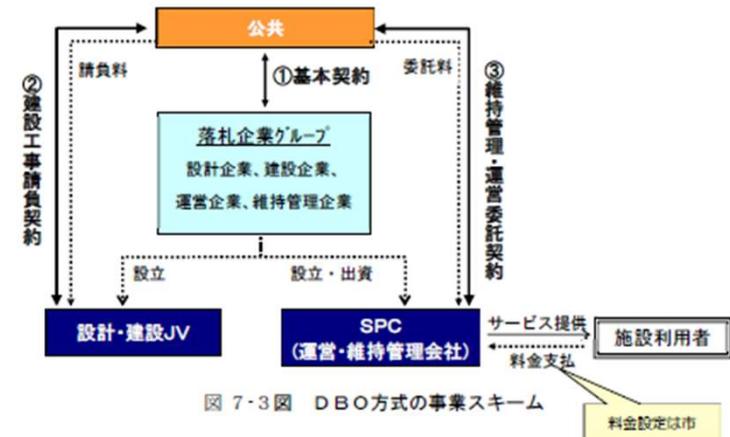


図 7-3 図 DBO方式の事業スキーム

(iii) PFI方式

①従来のPFI方式（BTO方式、BOT方式、BOO方式）

従来のPFI方式とは、設計・建設から維持管理・運営までを一体の業務として公共が一括発注する方式であり、複数年契約となる。施設の所有者は公共又は民間事業者であり、初期投資費用等の調達において資金調達については民間資金を活用する。

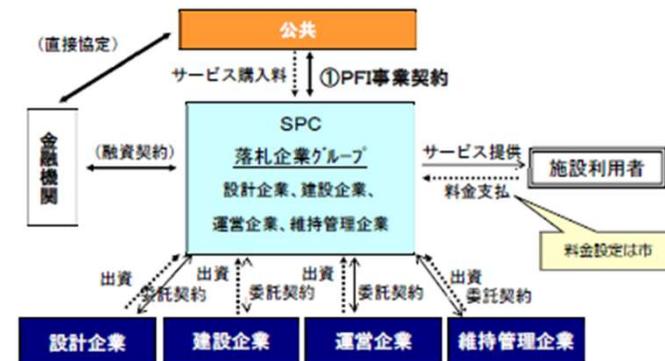


図 7-4 従来のPFI方式の事業スキーム

事業手法の検討について～令和5年度検討内容～

令和5年度実施検討内容 (事業スキームの整理)

②公共施設等運営権型

PFI方式のひとつの類型である運営権型とは、民間が施設を建設し、公共に施設所有権を移転した後、公共がPFI事業者に公共施設の運営権を設定し、民間が施設を経営する方式であり、複数年契約となる。

また、運営権型では、PFI事業者が運営権の対価として、運営権対価を公共に支払うこととなる。

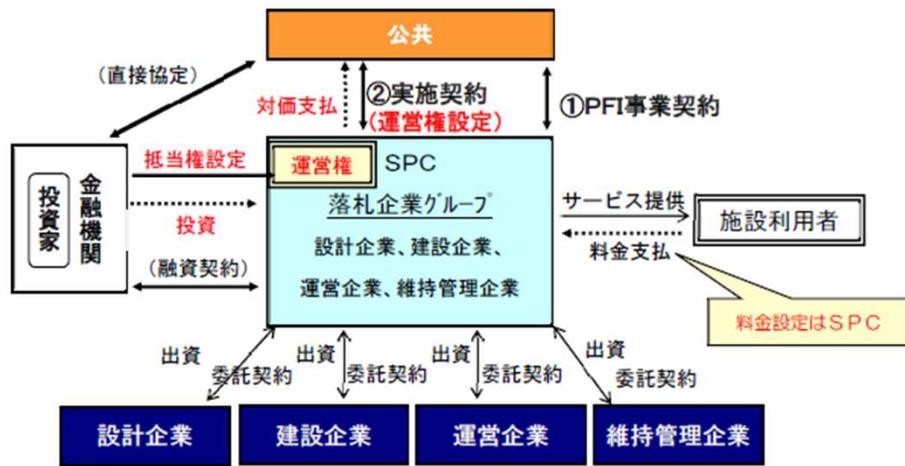


図 7-5 公共施設等運営権型の事業スキーム

表 7-1 事業方式の定性的比較結果

検討項目	公設公営方式	公設民営方式		民設民営方式(PFI方式)				
		D+B+O DB+O	DBO方式	BTO方式	BOT方式	BOO方式	運営権型	
事業計画策定段階で検討すべき事項	事業者選定期間の確保	○ (選定期間短縮化が可能)	○ (選定期間短縮化が可能)	△ (PFI法に準じる場合は一定期間を要する)	△ (PFI法に基づくため一定期間を要する)	△ (PFI法に基づくため一定期間を要する)	△ (PFI法に基づくため一定期間を要する)	△ (PFI法に基づくため一定期間を要する)
	民間ノウハウ発揮余地の確保	×	△ (整備・運営の分割発注により効果が限定される)	△ (整備・運営の一体発注により効果が期待できる)	○ (整備・運営の一体発注により効果が期待できる)	○ (整備・運営の一体発注により効果が期待できる)	○ (整備・運営の一体発注により効果が期待できる)	○ (整備・運営の一体発注により効果が期待できる)
	先行類似事例の有無	△ (少数)	○ (多数存在)	△ (少数)	○ (多数存在)	△ (少数)	△ (少数)	×
事業運営の安定性に関して検討すべき事項	リスク分担	×	△ (公設のためPFIと比較して公共負担増)	△ (公設のためPFIと比較して公共負担増)	○ (官民で適切なリスク分担構築が期待できる)	○ (官民で適切なリスク分担構築が期待できる)	○ (官民で適切なリスク分担構築が期待できる)	○ (官民で適切なリスク分担構築が期待できる)
	事業継続性の確保	○ (公共直営のため、事業継続性を確保)	○ (短期委託により、事業継続性を確保)	△ (金融機関の監視機能なし)	○ (金融機関の監視機能あり)	○ (金融機関の監視機能あり)	○ (金融機関の監視機能あり)	○ (金融機関の監視機能あり)
	一定の事業収入確保	○ (公共直営)	○ (混合型により対応可能)	○ (混合型により対応可能)	○ (混合型により対応可能)	○ (混合型により対応可能)	○ (混合型により対応可能)	×
	公共の管理体制	×	○ (直営のため必要人材の確保が必要)	○ (民間主体のため少数で可)	○ (民間主体のため少数で可)	○ (民間主体のため少数で可)	○ (民間主体のため少数で可)	○ (民間主体のため少数で可)
	公共体育施設としての機能確保	○ (確保可能)	○ (確保可能)	○ (確保可能)	○ (確保可能)	○ (確保可能)	○ (確保可能)	△ (利用料金が割高になるおそれあり)
	公共の財政支出削減に関して検討すべき事項	調達金利 (公共起債は低金利)	○ (公共起債は低金利)	○ (公共起債は低金利)	△ (民間調達金利は高金利)	△ (民間調達金利は高金利)	△ (民間調達金利は高金利)	△ (民間調達金利は高金利)
財政支出の平準化	×	×	△ (維持管理・運営費は平準化)	○ (可能)	○ (可能)	○ (可能)	○ (公共負担なし)	
公租公課	○ (なし)	○ (なし)	○ (なし)	○ (なし)	×	×	○ (なし)	
総合評価(点)※	9	17	17	20	16	16	13	
評価内容	・公共のリスク負担が大きく、管理体制も整わない	・従来方式	・民間ノウハウの発揮が期待できる	・民間ノウハウの発揮が期待できる	・公租公課が生じ、VFM算定上不利	・公租公課が生じ、VFM算定上不利	・利用料金収入のみでの実施が困難	

※○：2点、△：1点、×：-1点で算定

事業手法の検討について～令和5年度検討内容～

市場調査（令和5年度）実施結果（抜粋）

1.調査概要

先行類似PFI事業への参画経験のある建設企業及び運営企業等について、本施設の再整備に関する意見やPFI方式導入に関する意見等の把握を行うために、アンケート調査を実施した。

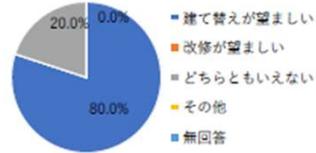
設問1:スポーツセンターの再整備検討について

本施設の再整備については、「建て替え」又は「改修」が想定されます。

これについて、貴社が最も適していると考える再整備案をご記入ください。あわせて、その選択理由等についてもご記入ください。

【1. 建て替えが望ましい 2. 改修が望ましい 3. どちらともいえない 4. その他】

選択肢	合計	割合
建て替えが望ましい	8	80.0%
改修が望ましい	0	0.0%
どちらともいえない	2	20.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
回答数	10	100.0%



- 再整備については、「建て替え」が望ましいという意見が8割を占めるという結果となった。主な意見は次のとおり。
 - 施設の老朽化（竣工後40年以上経過）の状況から、建て替えが望ましい。
 - 現状のレイアウトに捕らわれず、時代のニーズにあった新しいスポーツ施設活用方法にも対応できる建替えが望ましい。
- 一方、竣工後の経過年数が約44年である点と財政負担を軽減する点を踏まえ、建て替えよりも改修を選択されるのも一つの考えという意見もみられた。

4.調査結果のまとめ

市場調査結果について、以下のとおり整理する。

- 再整備については、建て替えが望ましいという意見がもっとも多く、建て替えであればゲーム棟・センター棟についてはPFI方式の導入が最適という意見が多くみられた。
- 民間事業者が懸念するリスクとしては、物価変動、工期設定等に関する意見がみられた。物価スライド項目を契約に定める等、物価高騰リスクを事業者側に負わせることがないよう配慮することが求められた。
- 本施設の整備・運営をDBOまたはPFI事業として実施する場合における、民間収益事業としては、地域住民向けのカフェや会員制のスクール・レッスンが想定されるとの回答があった。
- その他、防災拠点としての整備も必要だという意見もみられた。

市場調査を踏まえた最適な再整備方針

2.最適な再整備方針について

民間事業者から得られた意見を踏まえると、当施設が既に築年数が40年を超えており、今後更に老朽化が進む事を考えると、新しいスポーツ施設活用方法を踏まえて建替えた方が良いのではないかと意見が多数を占めた。また、「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン」に沿って安全性・機能性を評価し、経済性を評価し方向性を判定し、再整備という結果に至った。公的財政負担の縮減を目指す観点からは、さらなる収益性の向上を図るため、PFI導入可能性調査において詳細な整理・検討が必要である。さらに、全施設建て替えにあたり、施設全体の基本構想・基本計画等のマスタープランも必要となる。策定に当たっては市民意見の反映もステップとして重要となるが、これら検討を行った場合、再整備着手まで一定の期間を要することとなる。

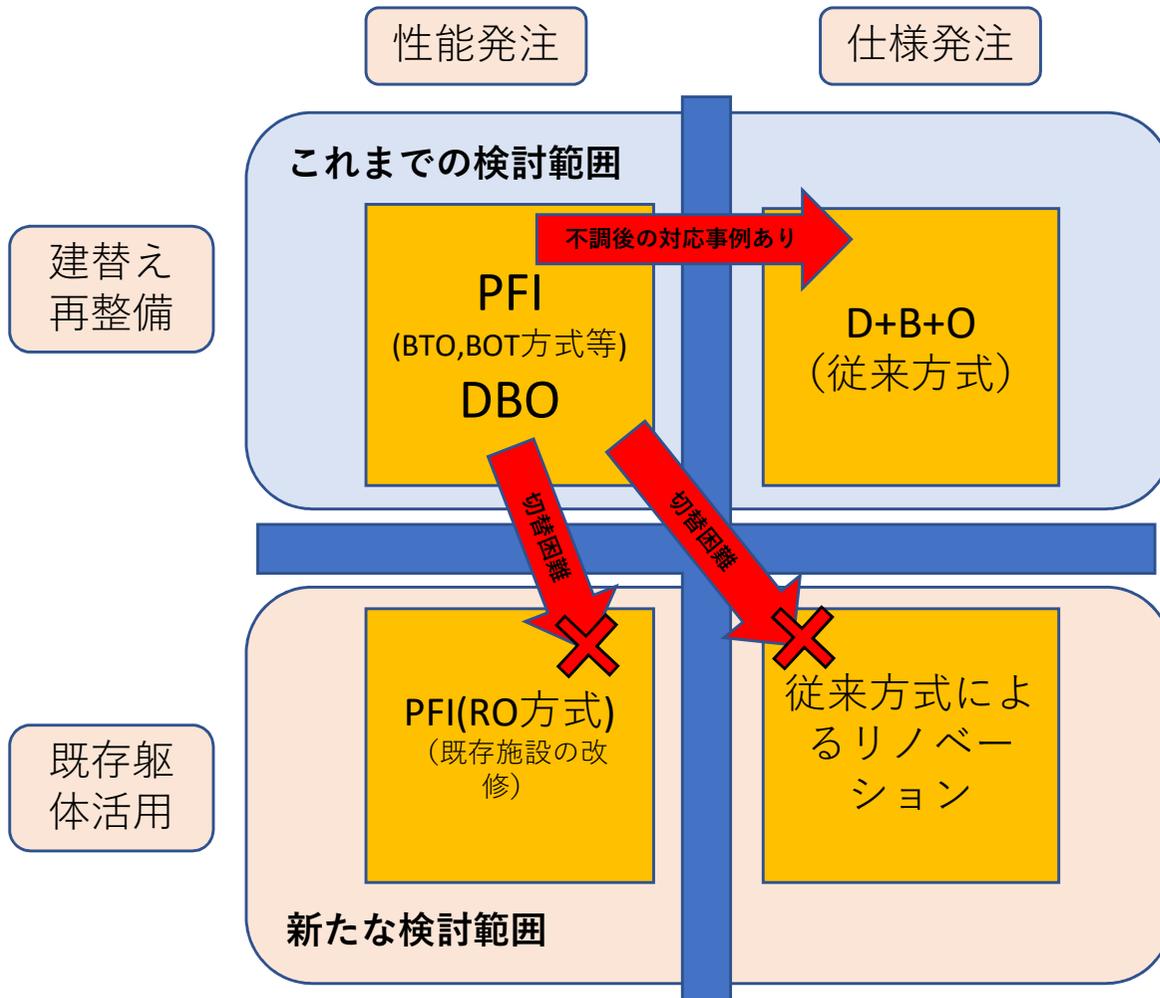
以上より、今後20～30年間耐用できるよう適切な改修を行うよりも、新しく建替える事が望ましいといえる。

事業手法の検討について～公共施設整備事業の状況～

事業手法	不調年	事業費	発注元	施設名称	事業内容	不調理由
P F I (BTO)	令和6年	254億円 (当初) →325億 で締結	秋田県	新県立体育館	Bリーグ仕様のアリーナ 観客席：6,000席以上 男子プロバスケットボールB1の秋田ノーザンハピネッツが本拠地として使用をする想定	資材価格や人件費の高騰 →総事業費を見直すなどの対応を検討し、2回目の入札を実施。整備費を約110億円上乗せし、令和7年3月に落札者を決定した。 ※当初令和6年12月に落札業者を決定する予定だったが、令和7年3月の業者決定となった（3か月延期、供用開始日は変更なし）
P F I (BTO)	令和6年	130億円	埼玉県 さいたま市	次世代型スポーツ施設整備	中央区の与野中央公園内の収容人数5千人規模のアリーナ建設	建設資材や人件費の高騰の影響で、事業者側と市の積算と乖離（かいり）が生じたため →対応未定
P F I (BTO)	令和6年	313億円	鹿児島県	スポーツ・コンベンションセンター	観客席：8,000席以上メインアリーナ、サブアリーナ、武道場、弓道場など。敷地面積は約3万㎡。	建設コストの大幅な増加 →個別発注する従来型手法へ転換する方針。 事業費圧縮でメインアリーナを8,000席以上から7,000席に削減するほか、サブアリーナ、武道場や弓道場の客席も減らす考え。 ※当初令和11年7月供用開始予定だったが、従来手法の場合、供用開始が令和14年度末頃となる見通し（約3.5年延期）
P F I (BTO)	令和5年	125億円	兵庫県 神戸市	神戸市立ポートアイランドスポーツセンター	（夏季）プール（冬季）スケートリンク 観客席2800席、水泳連盟公認プール	不明 →対応未定
D B O	令和5年	50億円	新潟県 柏崎市	(仮称)柏崎セントラルガーデン	旧庁舎跡地を利活用した、区コミュニティセンターと屋根付き多目的広場、多世代交流センターを核とする公共施設	市が設定した提案上限額に収まらないため（物価や労務費等の高騰と、リスクを踏まえた安全側の積算） →「D B O方式」から「従来方式（個別発注方式）」に変更する。 ※当初は令和8年4月開業予定だったが、従来手法に変更し、令和10年4月に開業を延期（2年延期）
従来方式 (建設工事)	令和7年	181億円	埼玉県 さいたま市	武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校	沼影公園と沼影小学校の土地を一体的に活用し、浦和大里小学校・内谷中学校の既存校舎も活用した、3校舎で一つの義務教育学校とするもの。	事業費や工期設定、人員確保など個別の課題 →対応未定
従来方式	令和6年	56.5億円 →63.7億 円で落札	茨城県 常陸太田市	常陸太田市新総合体育館	昭和52年7月に建設され、市民のスポーツ活動の中心拠点として親しまれてきた山吹運動公園市民体育館を、総合体育館として再整備するもの	不明（事業者辞退による） →内容の見直しやヒアリングなどを行い、事業費を増額した上で再公告・再入札を実施。令和7年3月に落札者を決定した。 ※事業費の増額及び期間の延長（令和9年度中→令和10年度早期）

事業手法の検討について～検討範囲の拡大～

再整備手法の比較



検討手法拡大の目的

資材価格や人件費の高騰等により入札不調が相次いでいる
(建設物価調査会「建築費指数」は2015年を100とすると、
現在140前後となっている。)

不調の場合、整備手法の見直しなどにより、年単位での事業の延期や、事業費の大幅な増額などを必要とする事例が散見される。

出来る限り不調等を未然に防ぎ円滑に再整備を進めるために、現在の社会情勢を捉えた再整備手法を検討する必要性が改めて生じている。(特に、コスト面で優位な既存施設を活用した再整備については、施設解体などで不調後の選択が困難になる場合もあり、早期の検討が必要)

既存施設を活用した再整備に関する可能性を調査検討することで、より着実に再整備を推進する。

事業手法の検討について～新たな検討内容の可能性～

追加検討再整備手法（案）

※令和5年度「戸田市スポーツセンター再整備検討資料」より

また、本施設のうちゲーム棟及びセンター棟については、改修又は建て替えが考えられるが、このうち既存施設の改修及び維持管理・運営を行う場合に適用が想定されるPFI手法としては、**R O方式 (Rehabilitate Operate)** が該当する。

R O方式は、内閣府民間資金等活用事業推進室の定義によると、「施設を改修し、管理・運営する事業方式。施設所有権の移転はなく、地方公共団体が所有者となる方式」と定義されている。



既存施設を活用する場合の条件

- ①使用する躯体の延べ床面積は変更できない。
（レイアウト変更などは可能）
- ②既存不適格部分について、法令で必要な範囲の対応を要する。（例：C棟の高さ制限）
- ③東側の面積拡大敷地はBTOなどの手法で新たに整備するため、複数手法を併用することになる。



新たな検討内容の可能性と課題

【可能性】これまでの議論より、再整備後に求められる機能のうち屋内施設については、既存の躯体を活用しても一定程度整備可能な見込みがある。（面積拡大敷地も活用）

【課題】各種法令の条件など含め、新たな整備手法のコストを含めたメリデメを整理する時間が必要である。

BTO + RO方式の事例

事業名：神奈川県立体育センター等
特定事業

事業主体：神奈川県

事業期間：H28.7～R2.12

事業方式：PFI（BTO + RO方式）

(2) 新築施設の概要

本事業で、新築工事を実施する施設の概要は次のとおりである。

表 1-1 新築施設の概要

施設名称	概要	想定規模 (許容範囲)
第2アリーナ・プール棟	第2アリーナ：アリーナ、多目的バラスポーツ競技・練習場、観客席等 プール棟：屋内50mプール、競技・練習場（フェンシング、ボクシング、ウェイトリフティング、ダンス・体操）、トレーニングルーム、運動能力筋力測定室等	約 14,900 m ² (-10～+0%) 地上2階
本館棟（体育センター、総合教育センター）	事務室、研修室、研究室、実験実習室、会議室、相談室、図書室、資料室、大講堂等	約 15,600 m ² (-10～+0%) 地上7階
宿泊棟	宿泊室ツイン42室程度（宿泊定員84名程度、全室障害者（車椅子）の利用を想定）、ミーティング室、飲食物販施設等	約 3,300 m ² (-10～+0%) 地上4階

(3) 改修施設の概要

本事業で、改修工事を実施する施設の概要は次のとおりである。

表 1-2 改修施設の概要

施設名称	概要	想定規模 (許容範囲)
テニスコート	砂入り人工芝への改修、屋外照明の設置、屋外更衣室の新築等	約 5,300 m ² うち、屋外更衣室約 260 m ² (-10～+0%) 地上1階
グリーンハウス	歴史的建造物の保全を目的とした改修	約 1,420 m ² (-10～+0%) 地上3階
外構	駐車場・駐輪場の整備、雨水貯留施設の整備、舗装の改修等	駐車場：約300台 うち、車いす用 約15台



事業手法の検討について～スケジュール案～

基本構想策定のスケジュール

再整備手法の検討範囲を拡大するにあたり、以下の作業を実施し、スケジュールについても再検討を行う。

- ①既存施設を活用した整備の可能性調査及び概算事業費の積算
- ②既存施設を活用した整備に関する市場調査（サウンディング）



※赤字の部分が、今回の変更に関する事項。

項目	内容
第6回策定委員会	基本構想検討範囲の拡大について、施設等検討（公園、アーバンスポーツ、屋外休憩施設、eスポーツ）
第7回策定委員会	既存躯体を活用した事業手法の可能性検討、施設等検討（器械体操、相撲、屋上）、サウンディング内容確認、基本構想骨子案
サウンディング	①収益型事業の可能性 ②ROなど既存施設の利用可能性 ③事業手法の詳細検討
第8回策定委員会	サウンディング結果報告、基本構想（案）検討、パブコメ実施内容説明
パブリックコメント	基本構想（案）に関するパブコメの実施（回答まで含めて4か月程度）
第9回策定委員会	パブコメ結果報告、基本構想の策定
PFI詳細検討 （R8年度内完了予定）	PFI導入可能性の詳細検討（業務委託）
基本計画作成業務 （計画策定期間は要検討）	具体的な施設機能やゾーニング、事業手法（業務委託）

近年の社会経済状況の変化を背景に、ポストコロナの新たな時代の公園は、人中心のまちづくりの中でそのポテンシャルを最大限発揮することが求められており、国土交通省「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言（R4.10）」では、新たな時代における都市公園の意義・役割として、“個人と社会のWell-beingの向上に向け、地域の課題や公園の特性に応じ、ポテンシャルを更に発揮すべき”としている。

都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言(概要)

都市公園制度誕生150年目のパラダイムシフト ～人中心のまちづくり時代における都市公園の意義・役割～

明治6(1873)年	東京官布達 都市公園制度の始まり(名園・旧跡等の静養遊憩の地を市民の憩いの場として国民に開放。その後、震災時の避難地・防災拠点等として公園整備が進捗)	都市の近代化、震災復興・戦災復興の都市計画
昭和30年代～	都市公園法制定(S31)、都市公園等整備緊急措置法制定(S47)	高度経済成長、人口の急増、都市の拡大と過密化
平成28(2016)年	『新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会』最終報告書	人口減少・高齢化、規制緩和、地方分権、地方創生、国際的な都市間競争、インフラ老朽化と技術職員の減少

ポストコロナの時代における人中心のまちづくりへの機運の高まり

「居心地が良く歩きたくなる」まちづくりの取組の広がり →交流・滞在空間、開かれた心地よい空間の創出→	地球環境問題の新たな潮流 →人と自然が共生する持続可能な都市の形成→	人口減少、少子高齢化への対応 →全てのこどもの健やかな成長を目指すこども政策の推進→
新型コロナウイルスの感染拡大を経たニューノーマル社会への対応 →人中心・市民目線のまちづくり、ニーズに迅速に対応する機動的なまちづくり→	市民・事業者の意識変化 →参画意識の高まり、官民連携による社会課題解決と新たな市場創造・成長→	デジタル・トランスフォーメーションの進展 →取組の仕組みの変革、新たな価値創出→

新たな時代における都市公園の意義・役割

個人と社会のWell-beingの向上に向け、地域の課題や公園の特性に応じ、ポテンシャルを更に発揮すべき

持続可能な都市を支える グリーンインフラ	心豊かな生活を支える サードプレイス	人と人のリアルな交流、 イノベーションを生み出す場	社会課題解決に向けた 活動実践の場	機動的な まちづくりの核
-------------------------	-----------------------	------------------------------	----------------------	-----------------

都市公園新時代 ～公園が活きる、人がつながる、まちが変わる～

人中心のまちづくりの中でポテンシャルを最大限発揮するため、パートナーシップの公園マネジメントで多様な利活用ニーズに応え、地域の価値を高め続ける「使われ活きる公園」を目指す

「使われ活きる公園」の実現に必要な 3つの変革	都市アセットとしての利活用 まちの資産とする 公園のストックを地域の資産と捉え、機動的・機動的取組で地域の価値やシビックプライドを高める	画一からの脱却 個性を活かす 公園の特性に応じたルールをオーダーメイドでつくり、公園の楽しみ方を広げ、新たな文化を創造する	多様なステークホルダーの包摂 共に育て共に創る パートナーシップの公園マネジメントを実践し、共有資産である公園を共にまちづくりへの関心を高める
----------------------------	--	---	---

都市公園新時代に向けた重点戦略～3つの戦略と7つの取組～

重点戦略【1】 新たな価値創出や社会課題解決に向けたまちづくりの場とする

公園が新たな価値創出や社会課題解決の場となるよう、NbS(自然を基盤とした解決策)の視点からグリーンインフラとしての保全・利活用に計画的に取り組みとともに、市民、事業者等による利活用の状況を管理運営や再整備にきめ細かく反映し、居心地が良く誰もが快適に過ごせる空間づくりを推進。

①グリーンインフラとしての保全・利活用 ○グリーンインフラを導入した緑の基本計画(公園の整備・管理方針を含む)の策定 ○緑の基本計画等に基づく自然環境の有する多機能性の戦略的な保全・利活用 ○緑の充実や再生可能エネルギーの活用等による公園のカーボンニュートラル化	②居心地が良く、誰もが安全・安心で、快適に過ごせる空間づくり ○公園の利活用状況の点検と点検結果を踏まえた公園再生 ○公園利用者の安全・安心の確保(防災・減災、バリアフリー、老朽化対策、防犯、暑熱対策等) ○政策間連携による社会課題対応型の機動的な取組(健康、福祉、子育て、教育、地域経済等)
--	---

重点戦略【2】 しなやかに使いこなす 仕組み をととのえる

公園は誰でも自由に使える空間という基本的な認識の下、多様化する利活用ニーズに応え、さらには公園が機動的なまちづくりの核となるよう、公園の特性等に応じた利用ルールの弾力化、新たな可能性を探る実験的な利活用の推進など、公園を使いこなす仕組みを整理。

③利用ルールの弾力化 ○画一的な利用ルールの見直しの促進(公衆利用の方向性や選択の提示等) ○利用者等の合意形成による公園毎のローカルルールづくり(協議会の活性化)	④社会実験の場としての利活用 ○公園での社会実験の事例・成果の共有(公衆利用の方向性や選択の提示等) ○多様な主体による幅広いテーマの社会実験を円滑に進めるための仕組みづくり(パークラボ)
--	--

重点戦略【3】 管理運営の担い手 を広げ・つなぎ・育てる

公園管理者としての体制確保・技術継承、地域との連携等に留意しつつ、多様な主体の参画を促進するとともに、管理運営を安定的に行えるよう自主性・自律性の向上を図り、ステークホルダーとのパートナーシップにより公園の価値を共創。

⑤担い手の拡大と共創 ○公園の特性等に応じた管理運営体制や役割分担の多様化 ○利活用をミッションとする体制構築(中間支援組織との連携等)	⑥自主性・自律性の向上 ○担い手の財政的な自立性の確保(計画的な収益事業実施、広告設置等) ○民間の管理運営への参画を更に促進する仕組みづくり
--	---

⑦公園DXの推進

デジタル技術とデータの利活用により、新たな時代の都市公園の実現を促進。

施策の方向性

- 公園に関するデータのデジタル化、オープンデータ化
- データを活用したEBPM
- DXによる新たなサービスを生み出す場としての活用
- デジタル技術、データを活用した、公園の利活用・管理運営の変革(リアルタイムデータを活用したサービス等)

公園に関する検討 ～上位関連計画等における位置づけ～

スポーツセンターの一部は都市公園としての整備が予定されているため、公園整備の検討にあたっては、**関係部署と連携を図りながら**進めていく必要がある。

なお、都市公園の敷地については、**緑化基準などをはじめとする、関係法令に準拠**する必要がある。

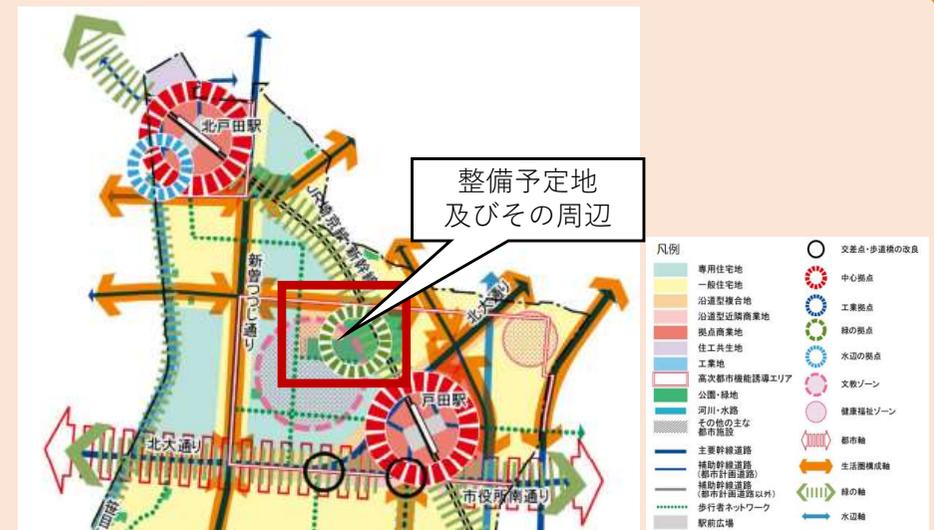
上位関連計画における本公園の位置づけ

【戸田市都市計画マスタープラン】

スポーツセンター再整備予定面積のうち50%程度は都市公園として整備される予定であり、埼京線東側の新曽第二土地区画整理事業地に計画されている、近接する公園予定地も合わせて活用する予定となっている。

当該地は『第2次戸田市都市マスタープラン（改訂版）（R元）』において、「**緑の拠点**」に位置付けられている。

なお、次期都市マスタープランでは、健康増進や余暇活動の中心として「**スポーツ・レクリエーション拠点**」としても位置づける予定となっている。



出典：第2次戸田市都市計画マスタープラン（R元）

新曽地域整備の基本方針図（一部抜粋）

戸田市における公園利用の方向性

【戸田市公園リニューアル計画】

『戸田市公園リニューアル計画（R3）』においては、戸田市の目指す公園像として、①**活動・活躍の場となる公園（楽しい公園）**、②**やすらぎの得られる安心・安全な公園（気持ちいい公園）**、③**郷土愛を醸成する公園（大好きな公園）**、が掲げられている。

公園に関する検討 ～公園とスポーツセンターの連携可能性（案）～

公園とスポーツは、“地域課題解決への活用”の観点から親和性が高く、本再整備においても、公園とスポーツセンターを一体的に整備・連携することで、地域の課題解決により効果を発揮していくことが期待できる。

公園 × スポーツセンター × 防災

●公園とスポーツセンターにおける、屋内外の大空間を活用することで、災害時等の市民の安心・安全を守る。

【事例】袋井市総合体育館（静岡県袋井市）

- ・防災機能として、指定緊急避難場所・指定避難所として約1500名の収容能力に加え、72時間分の非常用電源、防災備蓄庫、耐震性貯水槽などを整備。広場内にはマンホールトイレやかまどベンチも設置。

【事例】神栖防災アリーナ・神栖中央公園（茨城県神栖市）

- ・防災拠点として位置づけられた、スポーツ施設と文化施設の複合施設。神栖中央公園と一体的に屋内外で様々な防災機能を備える。
- ・キャッチフレーズは「『もしも』のときも、『いつも』のところへ」



【事例】由利本荘アリーナ・由利本荘総合防災公園（秋田県由利本荘市）

- ・「すべての市民が安全・安心・快適に利用できる複合型交流拠点の創出」を基本理念に、「スポーツ交流」、「防災」、「賑わい交流」を推進する拠点施設として整備。
- ・東北最大級のフロア面積を誇る、最大収容人数5千人のメインアリーナは、トップレベルの競技や各種大規模イベント等が開催可能。
- ・災害発生時には公園内が緊急一時避難場所としての役割を果たす。避難所として開設された場合に備え、停電時に3日間電気を供給できる自家発電装置や、雨水を活用するための雨水貯留槽、下水道が使えない場合のための緊急汚水槽を整備し、災害備蓄倉庫には防災備品や非常食などの備蓄品を配備。

公園に関する検討 ～公園とスポーツセンターの連携可能性（案）～

公園 × スポーツセンター × 新たなスポーツ

●アーバンスポーツ：

近年、特に若い世代から注目・人気を集めているアーバンスポーツで、新たなスポーツ参画や新しいスポーツの楽しみ方を発見する。

※アーバンスポーツの詳細は資料3参照。

【事例】安城市総合運動公園（愛知県安城市）

- 公園内、陸上競技場南側に令和6年3月、3×3バスケットボールコートがオープン。
- 施設内容は、メインコート1面、サブコート3面、ゴールのみ1基。

出典：安城市HP



●レクリエーションスポーツ：

芝生広場などを利用したレクリエーションスポーツで、年齢や体力に関係なく気軽に楽しみながら身体を動かし、ウェルビーイングの向上を促す。



公園 × スポーツセンター × 健康増進

●思わず身体を動かしたくなる公園で、スポーツ施設との連続性を高め、相互利用を促進。

【事例】健都レールサイド公園（大阪府吹田市）

- “自然に健康を「意識」する公園”、“「楽しみ」ながら健康になれる公園”、“健康のコツが「学べる」公園”、の3つの基本コンセプトをもとに、「健康・医療」をキーワードに多世代が集い交流できる公園として、平成30年に開園。
- 公園内には国立循環器病研究センター及び市民病院の協力・監修のもとに健康遊具27基、4つウォーキングコースを整備。
- 公園内には、健康の学びの拠点として、小説・絵本から健康・医療・スポーツに関する本を集めた「健康・医療・スポーツコーナー」や、血圧計、体組成計を設置した「健康応援コーナー」、健康づくりプログラムや運動教室、文化教室も実施できる多目的室、カフェ、などが入った多世代が利用できる「吹田市立健都ライブラリー」が整備されている。
- その他、「土の広場」では、幼児が遊べる複合遊具やボール遊びもできる土のグラウンドを整備。「みどりの広場」では耐震性貯水槽や防火備蓄倉庫、「かまどベンチ」や「マンホールトイレ」なども設置。

公園に関する検討 ～公園とスポーツセンターの連携可能性（案）～

公園 × スポーツセンター × 子育て支援

●屋内外で身体を動かしながら楽しむことで、子どもの身体的発達を促すとともに、保護者間の交流を促進。

【事例】袋井市総合体育館（静岡県袋井市）※再掲

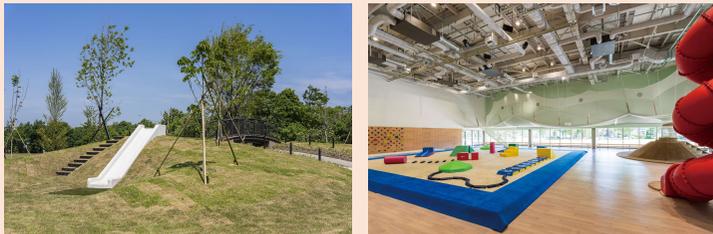
- 屋内の「キッズルーム」には漁獲網を使用した大型遊具を設け、親子で運動を楽しむ空間を提供。屋外の「子ども広場」には、8種類の遊びが楽しめる木製の「大型円環遊具」を設置。



【事例】青森市総合体育館・青い森セントラルパーク

（青森県青森市）

- ネット遊具や滑り台など大型遊具が常設されたキッズルームと屋外の子どもの広場は、隣接する通路から通り抜けが可能。子ども広場には、自由に走り回って遊べる芝生広場と小高い森（こどもの森）が広がっており、キッズルームと一体的な遊び場としても利用が可能。



出典：カクヒログループスーパーアリーナ（青森市総合体育館）HP

公園 × スポーツセンター × インクルーシブ

●障がいの有無に関係なく、一緒に身体を動かす・一緒に遊ぶという同じ体験を通じて、他者を理解し、共生社会の実現への一歩につなげる。

【事例】秋葉台文化体育館・秋葉台文化公園

（神奈川県藤沢市）

- 体育館をはじめ、プールや球技場が整備されている秋葉台文化公園は、令和2年に広場の遊具をリニューアル。
- スロープ付きの複合遊具や、車椅子ごと乗れるスイング遊具、大型バスケットシート付きのブランコ、回転遊具などを設置。障がいの有無に関係なく、誰もが遊べ・楽しめる広場として、市内外からの利用がある。



- 東京2020オリンピックで採用された「BMX、スポーツクライミング、スケートボード、3x3」などをはじめとする“アーバンスポーツ”は、広い場所を必要としない特徴をもつ、都市型のスポーツである。
- 順位や記録よりも自己表現や仲間との一体感を重視する傾向にあり、音楽・ファッション・アートなどとの親和性の高いスポーツとして、近年、特に若い世代から注目・人気を集めている。
- 種目によっては剣道場等の既存施設で対応可能なものもあるが、スケートボード場など専用施設を必要とするものもある。

◆アーバンスポーツの種類

種目	競技人口 (愛好家含む)	利用が想定される施設
ブレイキン	約600万人※1 ※ストリートダンス	剣道場など
スラックライン	約5~6万人※2	公園など
パルクール	約1,000人※3	公園など
3x3	数万人 ※世界で約40万人	体育館、屋外コート (専用施設)
スポーツクライミング (ボルダリングなど)	約60万人※4	専用施設
スケートボード、インラインスケート	約40万人※5	専用施設
BMX	数万人※6	専用施設

専用施設を必要とする競技について
今回検討を行う

出典 (いずれも推定値) : ※1) ストリートダンス協会 (2015年) / ※2) 産経新聞 (2021年) / ※3) 横須賀市 PARKOUR TOP OF JAPAN YOKOSUKA 2024
※4) 日本山岳・スポーツクライミング協会 (2019年) / ※5) (一社) 日本スケートボード協会 / ※6) スポスル

ニーズ

- 昨年度実施したニーズ調査の結果から、アーバンスポーツへの要望は一定数あげられている。
- 3x3（バスケットボール含む）は小学生、スケートボードやパルクール、スラックライン、BMXなどは中学生からのニーズがやや高いのが特徴的である。また、スポーツセンター利用者からはボルダリングのニーズが高い傾向にある。
- 東京2020オリンピックでアーバンスポーツが注目されたこともあり、2021年以降、市長への提言等でアーバンスポーツ場整備の要望が複数あげられている。特に、スケートボード場に関する意見が多い。

アンケートの結果

◆ 市内公共施設の数について、不足していると思われる施設は？

「アーバンスポーツ場」と回答した人は21人（11%）で、10施設の選択肢の内6番目となった。（n=187・複数回答可）

◆ 今後やりたいスポーツは？（※複数回答可）

※カッコ内は回答割合

アンケート対象	市民 (無作為抽出)	利用者	小学生	中学生
回答者数	756	476	538	449
ダンス（ジャズ、社交ダンス、ブレイキン、フラダンス、フォークダンス等）	72(10%)	94(20%)	58(11%)	52(12%)
バスケットボール、3x3	36(5%)	41(9%)	80(15%)	43(10%)
フリークライミング (ボルダリング、リードクライミング、スピードクライミング等)	20(3%)	38(8%)	7(1%)	13(3%)
スケートボード、ローラースケート、インラインスケート、一輪車	14(2%)	25(5%)	31(6%)	32(7%)
パルクール、スラックライン	7(1%)	25(5%)	22(4%)	33(7%)
BMX	6(1%)	15(3%)	8(1%)	24(5%)

陳情第11号 アーバンスポーツ（都市型スポーツ） 広場等に関する検討を求める陳情

議決：採択（令和5年12月18日、市民生活常任委員会）

上記のほか、スケートボードができる施設の整備に関する「市長への提言」が、過去に5件要望されている。

受理番号	陳情第11号	件名	アーバンスポーツ（都市型スポーツ）広場等に関する検討を求める陳情
受理年月日	5.11.17		
陳情者			

【要旨】

1. アーバンスポーツ（都市型スポーツ）広場等の設置の検討に向けたニーズ調査をお願いいたします。
2. スポーツ推進計画などにアーバンスポーツ（都市型スポーツ）の視点を盛り込んでいただくようお願いいたします。

【理由】

アーバンスポーツとは、公園や裏路地などで楽しむ遊びとして始まった「都市」と一体化するスポーツのことを指します。東京オリンピックを契機にスケートボードをはじめ、様々な競技（BMX・クライミング・バスケットボール3×3など）がメジャーになり、多くの日本人選手の活躍もあり、競技人口も増加傾向にあります。気軽に手を伸ばせるスポーツとして、ますます人気は加速していますが、その一方で交通事故や公共物破損などのニュースを目にすることも増えてきている状況があります。

こうしたトラブルを未然に防ぎ、子供から大人まで、安全に伸び伸びとアーバンスポーツが楽しめる専用の広場等が必要であると考えます。戸田市は「生涯スポーツ都市」を宣言するなど、スポーツの推進に積極的に取り組んでいることから、前向きにご検討くださるようお願いいたします。

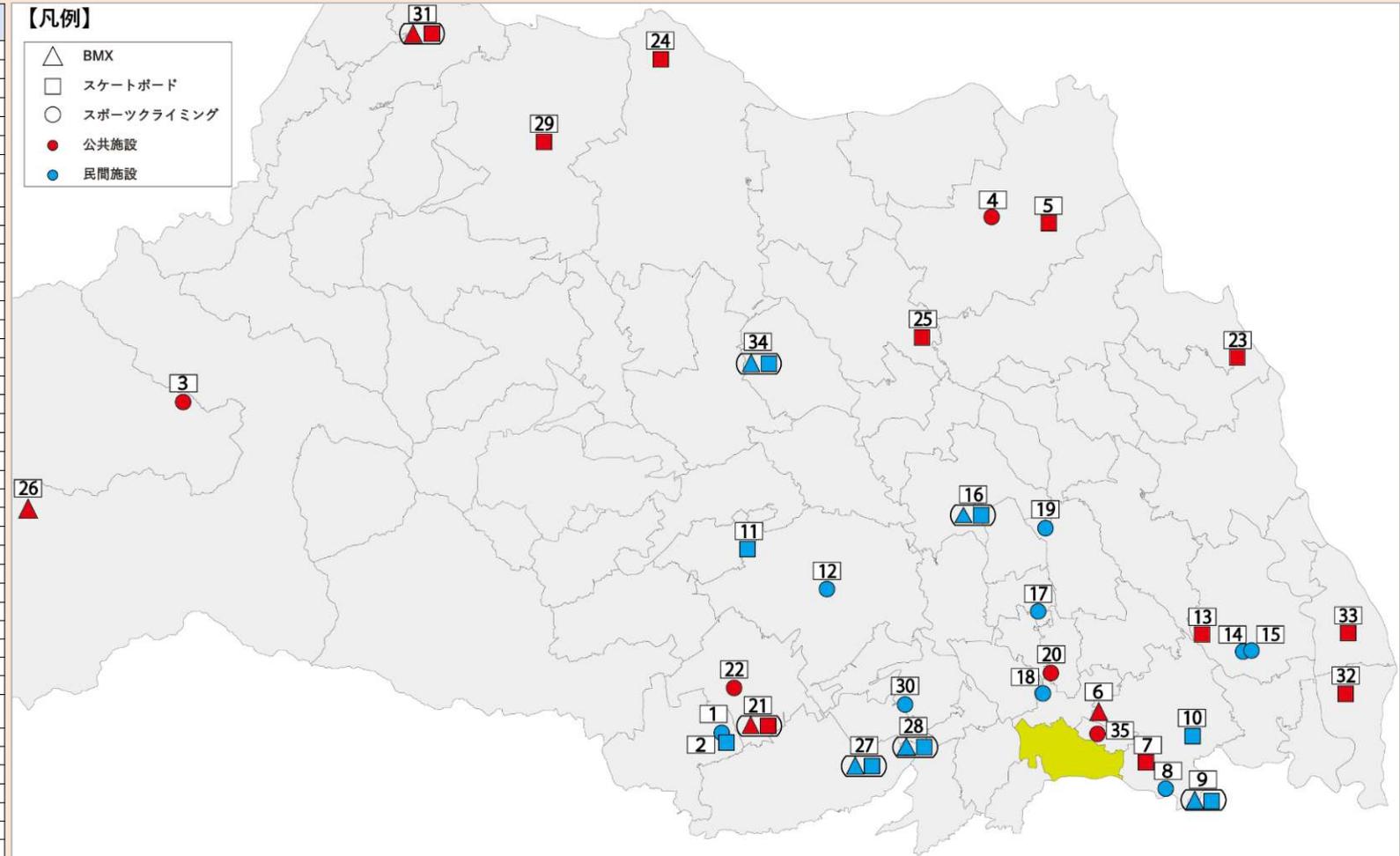
他市の整備状況（マッピング）

- 戸田市内でスケートボードやBMX等の専用施設はない。
- スポーツクライミング等ができる施設については、特に民間施設が多くある。

市町	施設名	公共/ 民間	競技
1	入間市	民間	ボルダリング
2	入間市	民間	スケートボード
3	小鹿野町	公共	ボルダリング
4	加須市	公共	ボルダリング
5	加須市	公共	スケートボード
6	川口市	公共	BMX
7	川口市	公共	スケートボード
8	川口市	民間	ボルダリング
9	川口市	民間	BMX
10	川口市	民間	スケートボード
11	川越市	民間	ボルダリング
12	川越市	民間	ボルダリング
13	川越市	公共	スケートボード
14	越谷市	民間	ボルダリング
15	越谷市	民間	ボルダリング
16	さいたま市	民間	BMX
17	さいたま市	民間	スケートボード
18	さいたま市	民間	ボルダリング
19	さいたま市	民間	ボルダリング
20	さいたま市	公共	ボルダリング
21	狭山市	公共	BMX
22	狭山市	公共	スケートボード
23	杉戸町	公共	スケートボード
24	熊谷市	公共	スケートボード
25	鴻巣市	公共	スケートボード
26	秩父市	公共	BMX
27	所沢市	民間	BMX
28	所沢市	民間	スケートボード
29	深谷市	公共	スケートボード
30	富士見市	民間	ボルダリング
31	本庄市	公共	BMX
32	三郷市	公共	スケートボード
33	吉川市	公共	スケートボード
34	吉見町	民間	BMX
35	蕨市	公共	スケートボード

【凡例】

- △ BMX
- スケートボード
- スポーツクライミング
- 公共施設
- 民間施設



スケートボード、インラインスケート、BMX

- 近隣市では、スケートボード、インラインスケート、BMXを同一施設で使用できる施設が多い。
- 近隣住民から滑走音等に関する苦情が予想されるため、**住宅地を避けて設置されているケースが多い**。また、**公園内の設置や屋上・高架下を活用した事例もある**。

施設別比較（スケートボード、インラインスケート、BMX）

該当施設	セナリオハウス フィールド三郷 (三郷市)	入曽パーク (狭山市)	県民健康福祉村 (埼玉県)	吉川アクアパーク (吉川市)	宮下公園 (渋谷区)	新見沼大橋 スポーツ広場 (さいたま市)
設置場所	屋外 (陸上競技場に併設)	屋外 (多目的広場に併設)	屋外 (公園内に設置)	屋外 (多目的広場に併設)	屋上	高架下 (多目的広場に併設)
できる種目	スケートボード インラインスケート BMX	スケートボード インラインスケート BMX	スケートボード インラインスケート	スケートボード インラインスケート	スケートボード、 インラインスケート	スケートボード インラインスケート BMX
面積※ ¹	1,380㎡	1,530㎡	1,147㎡	600㎡	463㎡	不明
利用料	200円/1日 (市内)	無料	無料	無料	500円/2時間 (一般)	無料
セクション※ ²	有	有(少)	無	有	有	有
レンタル	無	無	無	無	有	無

※¹：面積については、Google マップを使用し、各施設のおおよその範囲を算出したもの。

※²：セクションとは、競技エリア内に設置された障害物や構造物のこと。

スケートボード、インラインスケート、BMX（写真）



**セナリオハウスフィールド三郷（三郷市）内にある
スケートパーク**

（出典：セナリオハウスフィールド三郷HP）



宮下公園（渋谷区）内にあるスケート場

（出典：渋谷区立宮下公園HP）

3 x 3 (屋外コート)

- コートの大きさが15m×11m (165㎡) とバスケットボールコートの半分の大きさであり、ゴールも1箇所とコンパクトであることが特徴。
- 設置場所については、屋内施設での設置例がある一方、屋外の公園施設の一部として整備されているケースも多くある。
- バスケットボール競技者の利用もあり、利用者同士のコミュニケーションが生まれることも見受けられる。
- スケートボード同様、ボールをつく音などが騒音として苦情にならないよう工夫が必要となる。

◆市内のバスケットボールまたは3×3ができる公共施設

公共施設名	所在地	主な対象者	バスケットボール or 3×3
ボール公園 (屋外)	下笹目	制限なし	3×3
本町青少年の広場 (屋外)	本町5丁目	青少年	バスケットボール
中町青少年の広場 (屋外)	中町2丁目	青少年	バスケットボール
新曽青少年の広場 (屋外)	新曽	青少年	バスケットボール
東部福祉センター体育室 (屋内)	下前1丁目	制限なし (要予約)	バスケットボール
児童センターこどもの国 軽体育室 (屋内)	本町1丁目	高校生まで	バスケットボール

北戸田駅近くにあるボール公園 (戸田市) 内にある3×3コート



- コートは午前8時30分から午後8時まで使用可能 (時間外は施錠)
- 駅の近くに近年整備されたコートであり、利用者は若者を中心に多くいる ※ただし、近隣住民からの苦情も寄せられている

◆その他スポーツ広場や公園内にバスケットボール広場を設置した例



宝泉スポーツ広場 (群馬県太田市)
内にある3×3コート
(出典: 太田市HP)



小豆沢公園 (板橋区) 内にある
多目的広場

(出典: あずさわスポーツフィールド、板橋区、
[クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示](#)
[4.0 国際](#))

スポーツクライミング

- スポーツクライミングには①リード、②ボルダリング、③スピードの3種目があるが、リード及びスピードの壁は15mほどの高さが必要となり、維持管理面や安全面、必要面積等の観点から、**スポーツセンターに整備する場合は、ボルダリング施設が適当**と考えられる。
- ただし、ボルダリングについては**近隣市に民間施設も多くあり、民業圧迫とならないよう配慮が必要**となる。

◆スポーツクライミングの種類

① リード

高さ約15メートルの壁をロープで安全確保しながら登り、制限時間内にどれだけ高く登れるかを競う

② ボルダリング

高さ4～5メートルの低い壁をロープなしで登り、難しいルートをいかに少ない回数で完登できるかを競う。

③ スピード

高さ15メートルの標準化された壁を、できるだけ速く登ることを競う。

①リード



②ボルダリング



③スピード



東金町運動場スポーツクライミングセンター（葛飾区）のスポーツクライミング施設（出典：葛飾区体育施設HP）

スポーツクライミング（ボルダリング導入事例）

- ボルダリングについては、専用施設ではなく他施設や室内のオープンスペース内に併設して整備する事例もある。
- トレーニングルームと併設した事例では、職員が常駐しているため、危険な利用を防止するとともに、けがをした場合の早急な対応が可能となっている。



中野区立総合体育館（中野区）
トレーニングルームに
クライミングウォールを併設
(出典：中野区立総合体育館HP)



由利本荘総合防災公園ナイスアリーナ
（秋田県由利本荘市）
ホール（廊下）にクライミング
ウォールを併設
(出典：由利本荘総合防災公園ナイスアリーナHP)



ヤマト市民体育館前橋（群馬県前橋市）
競技場にクライミングウォールを併設
(出典：前橋市HP)

アーバンスポーツ場整備の方向性についての検討（まとめ）

【方向性（案）】

- アーバンスポーツのニーズが一定数あることから、市内の整備状況を踏まえつつ、**アーバンスポーツが実施可能なエリアの設置を検討**する。
- 今後のニーズの変化にも対応できるよう、**大規模な専用施設ではなく可能な限りフレキシブルな仕様を検討**する。
- 多くの市民がアーバンスポーツを「する」、「みる」ことができるよう、初心者や未経験者でも気軽に楽しめる**エンター向け施設**とし、利用しやすい設置エリアを検討していく。

なお、施設整備について検討する際は、関係各課と調整・連携しながら進める。

	方向性（案）	面積	市内・近隣市の整備状況	ニーズ
スケートボード インラインスケート BMX	<ul style="list-style-type: none"> • 市内の予定を含めた整備状況を調査し、スポーツセンターにスケートボード等の利用可能エリアを設置するか検討を行う。 • セクションについては、エンター向けのを想定する。 • 設置する場合は騒音等に配慮した施設とする。（設置エリアや利用可能時間の工夫） 	500～ 1,500㎡ 程度	市内に専用施設はない	小中学生アンケートでニーズが高い
3x3	<ul style="list-style-type: none"> • 市内のバスケットボールまたは3x3のコートの利用状況を踏まえ、設置を検討する。 • 設置する場合は騒音等に配慮した施設とする。（設置エリアや利用可能時間の工夫） 	165㎡程度	公共施設でバスケットボールまたは3x3ができるのは6箇所	バスケットボール含めどの年代からもニーズがある
スポーツ クライミング	<ul style="list-style-type: none"> • スポーツクライミング3種のうち、ボルダリング施設の設置を検討する。 • 設置する場合は、他競技の施設との併設などスペースの有効活用や相乗効果が期待できるよう工夫を行う。 	併設の場合は、小規模で整備可能	こどもの国に幼児用ボルダリングがある 近隣市に民間施設有	18歳以上のアンケートでニーズがある

屋外施設利用者の現状

○テニスコート利用者

【トイレ/更衣室】

- 弓道場に設置の屋外トイレ及び屋内更衣室を使用している利用者が多い（★）

○陸上競技場利用者

【トイレ/更衣室】

- C棟またはG棟の屋内トイレ及び更衣室を使用している利用者が多いが、**土足の脱ぎ履きが必要**となっている。（★）
- 大会時のみG棟南側のトイレを開放。（★）

【器具庫】

- 陸上競技物品（スターティングブロック等）や大会で使用する物品（テント、放送器具等）を入れる倉庫については、ゲーム棟1階の第一競技場横にあり、**大会時のみ第一競技場南側入口を開放し、倉庫の使用を許可**している。（●）
- 大会利用以外では、用具の貸し出しは行っていない状況。
- 第一競技場利用者と動線（室内履きと土足エリア）が混在**している。



利用者・団体からの声（アンケート・市長への提言・関係団体ヒアリング）

- 屋外トイレの設置数が少ない。（利用者アンケート）
- 屋外トイレが寒い。（利用者アンケート）
- 大会利用以外でも用具（走高跳用マット）の貸出しをしてほしい。（市長への提言）
- 陸上競技場に隣接した屋外の倉庫（物品を入れる）の要望。（陸上競技協会）
- 陸上競技場と第一競技場で大会が被った際に、G棟南側で室内履きと土足エリアの動線が被るため利用しづらい。（戸田市レクリエーション協会）

屋外休憩施設の必須機能

- 土足で利用可能なトイレ（多機能トイレを含む）
- 器具庫（陸上競技場近く）
- ※センター棟の中に土足の動線を確保し、上記機能を付けるなど設計の工夫が可能であれば、必ずしも別棟で建てる必要はない**

屋外休憩施設（クラブハウス）について ～アイデア～

その他アイデア（事例）

富士見公園 屋外クラブハウス（神奈川県川崎市）

クラブハウスがピロティになっており、雨よけ、日よけの効果がある。また、公園内で運動後に汗を流すことができるシャワールームや、荷物を預けて公園内で遊ぶことができるロッカールームなどを設置している。



出典：富士見公園HP

鶴舞公園 テラスポ鶴舞 クラブハウス（愛知県名古屋市）

瓦屋根に覆われた幅11m・全長87mの大きなテラスの上に、受付・交流の場として「ラウンジ」、様々な研修・イベントが可能な2つの「マルチルーム」、シャワー・トイレを完備した4つの「更衣室」などが機能的に配置されている。また、大きなテラス空間がこれらの室内設備と屋外の多目的グラウンドをつなぎ、多彩なコミュニティの場を創出している。



出典：テラスポ鶴舞HP

屋外休憩施設(クラブハウス) のその他アイデア

- 暑さや天候の急変等への対策として、屋根付きの休憩所や屋内のラウンジスペースの設置
- 屋内施設開場時間外（朝や夜間）にも使用可能なランニングステーション機能の設置（ロッカー、シャワールーム、公園など屋外施設を管理するための事務室等）

関連計画におけるeスポーツの位置づけ

【第3期スポーツ基本計画（令和4年度～令和8年度）】（スポーツ庁）

国際オリンピック委員会（IOC）は、いわゆる「バーチャルスポーツ」について、「身体運動を伴うもの（サイクリングなど）と身体運動を伴わないもの（サッカーなど）の2つの形態」があり、ビデオゲームと区別をすることが重要であるとした上で、「バーチャルスポーツの人気の高まりを生かして、オリンピック・ムーブメント、オリンピックの価値、スポーツ参加を促進し、若者との直接的な関係を育てる。」としている。このようなIOCにおける指針等の国内外の動向を踏まえながら、引き続きスポーツ庁としても、「バーチャル」と「スポーツ」との関わり（いわゆる「eスポーツ」の捉え方を含む。）について検討していく必要がある。

【埼玉県スポーツ推進計画（令和5年度～令和9年度）】（埼玉県）

施策2：子供・若者のスポーツ活動の充実（3）地域におけるスポーツ活動の充実

- ・ eスポーツやアーバンスポーツ、バーチャルスポーツなど、子供や若者をターゲットとした新しいスポーツを推進します。

施策5：スポーツを支える基盤づくり（4）スポーツに関する情報発信の強化

- ・ 話題性があり人気の高いeスポーツやアーバンスポーツ（BMX、スケートボード、ボルダリング、3x3、ブレイキン等）に関する情報を積極的に発信します。

施策6：スポーツを楽しむことができる多様な機会の創出（2）多彩なスポーツ大会、イベントの誘致・開催

- ・ eスポーツやバーチャルスポーツ、アーバンスポーツ等、県民の関心の高いイベントを支援します。

施策10：スポーツを通じた地域の活性化（1）スポーツを核とした魅力ある地域づくり（3）スポーツの成長産業化

- ・ eスポーツなどのスポーツ大会やイベントの誘致・開催を通じ、県内外からの参加者が食や物産等、県の魅力を楽しめる併催イベントを開催し、地域経済の活性化を図ります。

戸田市スポーツ推進計画におけるeスポーツの位置づけ

【第2期戸田市スポーツ推進計画（令和3年度～令和7年度）におけるスポーツの定義】

「日常生活における軽い運動、楽しみながら体を動かすこと、そして高いレベルの競技までを広く「スポーツ」として捉える」

※本計画における「スポーツ」には、eスポーツ（エレクトロニック・スポーツ）は含まないこととします。

⇒第3期推進計画の策定にあたって、現在、eスポーツの位置づけについても検討をすすめている。

eスポーツ等に関する検討～近年の動向～

【バーチャルスポーツ、eスポーツの推進にあたっての考え方(提言)】

(スポーツ庁「バーチャルスポーツ(eスポーツ)とまちづくり研究会」) (令和7年3月)

- ・「スポーツ」の定義については、スポーツ基本法の前文において「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」と規定されている。
- ・同法には、定義をより広く捉えるべきとの意見や社会的・国際的な動きを反映すべきとの意見を踏まえ、スポーツに係る概念を固定しないこととする考え方が反映されている。それを踏まえると、定義において一定の活動を排除するのではなく、バーチャルスポーツ、eスポーツを含め、「する」「みる」「ささえる」「つながる」といったスポーツの多様な活動を幅広く受け止めていくことが望ましい。
- ・定義としてはこのように幅広く受け止めつつ、スポーツ振興の観点からは、バーチャルスポーツ、eスポーツも他のスポーツと同様、スポーツ基本法を踏まえ、心身の健康の保持増進、安全の確保、フェアプレー、インテグリティといった理念を大切にし、ともにスポーツの価値を高めていけるような方策のもとで推進していく必要がある。

改正スポーツ基本法 (令和7年6月)

(情報通信技術を活用したスポーツの機会の充実)

第二十四条の二 国及び地方公共団体は、スポーツ団体と連携して、情報通信技術を活用したスポーツの機会の充実が図られるよう努めなければならない。



eスポーツもスポーツの多様な活動の一部としながら、新たなスポーツセンターのコンセプトなどを踏まえて、推進すべきeスポーツの範囲や必要な施設機能についての検討が必要となる。

eスポーツ等に関する検討～eスポーツの分類～

eスポーツ（IOCの分類）

1) Physical sports games（体験をゲームに取り込む技術を用いた実際の身体的動作を求めるスポーツ競技）

【具体例】Wii Sports（テニス、ボウリングなど）、Just Dance（ダンスゲーム）、Ring Fit Adventure（フィットネスアドベンチャーゲーム）

⇒家庭用ゲーム機や専用機器を用いて、手足や体の動きと連動するコントローラーを操作し、スポーツの疑似体験をするもの。これらのゲームは、競技性よりも、楽しみながら身体を動かすことを重視する傾向がある。



2) Simulated sports games（電子的なプラットフォームでバーチャルに行われるスポーツ競技）

【具体例】FIFA シリーズ（サッカー）、Gran Turismo（自動車レース）、NBA 2K シリーズ（バスケットボール）

⇒eスポーツの競技種目として採用されることが多く、実際のスポーツ（サッカー、野球、バスケットボールなど）のルール・動き・戦術を、ゲーム内で忠実に再現しているゲーム。友達と対戦したり、選手として参加するなど様々な楽しみ方がある。



3) Olympic Esports games（オリンピックの価値を尊重し、eスポーツ及びゲームのコミュニティとともに広め関わっていくeスポーツ競技）

⇒IOCが公式に創設したeスポーツ大会で、令和9年（2027年）にサウジアラビアで初開催予定。オリンピックの理念（平和、教育、文化、倫理）を尊重しながら、ゲームコミュニティと協力してeスポーツを発展させることを目的としている。単なるゲーム大会ではなく、身体的・精神的な健全性、教育的価値、社会的責任などを重視した構成で行われる。



【一般的なeスポーツの具体例】

League of Legends（マルチプレイヤーオンラインバトルアリーナ）、ぷよぷよeスポーツ（パズル）

Dota 2（マルチプレイヤーオンラインバトルアリーナ）、Rocket League（車を使用したサッカーゲーム）

eスポーツ等に関する検討～行政等による取組事例～

近年、eスポーツを多世代交流や福祉、地域活性化など、地域の課題解決に活用する動きが全国的に高まっている。さらに、eスポーツと地域の文化・特徴などと組み合わせることで、相乗効果を生み出している事例もみられる。

埼玉県の取組み

埼玉県の取組みとして、令和4年度の「埼玉県スポーツフェスティバル2022in熊谷eスポーツ大会」より継続的にeスポーツイベントとeスポーツトレーニングキャンプを実施している。

イベントでは、プロゲーマーによるデモンストレーションや、一般参加者が楽しめる大会、eスポーツ体験コーナーなどのほか、eスポーツ関連の最新技術や機器の展示、障がい者eスポーツの普及にも力を入れている。

トレーニングキャンプは、主に県内の中高生などが参加し、プロゲーマーや業界のエキスパートによる指導により、ゲームスキルの向上や、戦略立案、チームワーク、メンタルトレーニングなども実施している。あわせて、eスポーツ選手としてのキャリア形成や、ゲーム業界での就職に関する情報提供も行われている。

また、高齢者福祉の分野では、60歳以上の方を主な参加者とする「ねんりんピック彩の国さいたま2026」でeスポーツのイベントを開催予定である。



所沢市の取組み

所沢市では、eスポーツへの幅広い層への理解を深めることや、地方創生の促進などにつなげる目的で令和5年7月に「所沢eスポーツサミット」を開催した。市役所内の会場では、eスポーツ業界の人材育成等に関する講演やeスポーツ体験会などが実施された。

また、令和6年には市内在住の60歳以上を対象に、複数の老人福祉センター等で「初心者向け！ぶよぶよeスポーツシニア講習会」を開催した。指でコントローラーを操作する動きや参加者同士のコミュニケーションにより、認知症の予防や交流の契機となるなど、高齢者福祉の面で様々な効果が期待されている。

富山県の取組み

富山県では、競技団体や地元テレビ局とタッグを組み、「Toyama Gamers Day」などのeスポーツイベントを開催。音響、照明、会場設営など全て地元の企業で構成した”オール富山”で開催することで、イベントを継続的に実施していくためのノウハウの蓄積を図った。

その後も、県内の酒蔵での大会開催や、伝統工芸である「高岡銅器」での表彰盾の制作、空き家となった古民家を活用した観光ツアーを組み合わせた合宿開催などを実施。地域文化との融合による、eスポーツを通じた地域の課題解決のきっかけづくりに取り組んでいる。

eスポーツ等に関する検討～戸田市での実施状況～

TODA eスポーツフェスタ

戸田市eスポーツ協会が主催するイベントで、令和5年から開催されている。

戸田市eスポーツ協会は、ダイバーシティ&インクルーシブなまちづくり、青少年の健全なeスポーツ文化の普及及び発展、市民や行政、そして各種団体、地域社会をつなぐ架け橋として役割を目指し、市内におけるeスポーツ関連の活動を行っている。

eスポーツフェスタでは、関連企業と協力し、各種体験会（格闘ゲーム、パズルゲーム&プログラミング、バーチャルローイング、レースゲーム、タイピング、バーチャルサイクリング）を実施。

バーチャルインドアローイング大会

普段は水上で行う漕ぐ動作を、陸上でトレーニングとして行うものを「インドアローイング」と言う。

インドアローイングをオンライン上で繋ぐことで、トレーニングとして優れている「インドアローイング」を「競技」として楽しんでしまおう、というのが「バーチャルインドアローイング」である。

すでに海外では大きな大会も開催されており、日本での杯開催は2023年2月。2024年に2回開催された大会では、ボートレース戸田のイベントホールがメイン会場として利用されている。



eスポーツ等に関する検討～【参考】市民ニーズ～

あくまでも参考ではあるが、eスポーツに対する市民ニーズは、スポーツ離れが近年の課題となっている若年層に高い傾向がある。

体力に自信がない人でも参加しやすく、また、趣味や気分転換としての実施ニーズも高いと考えられることから、eスポーツは、スポーツ実施の新たな入口（きっかけ）としての役割を果たし、スポーツ参画人口拡大への寄与も期待できる。

戸田市民（18歳以上）

- 回答者756人のうち、今後新しくやってみたいスポーツ（複数回答可）として「eスポーツ」を選択した人は11人（約1.5%）。
- 回答者全体の属性と比較して、男性・10～20代が多い傾向にある。
- 回答者全体と比較して、体力に自信がない（あまり自信がない/自信がない）人が多い。
- 回答者全体と比較して、スポーツセンターを利用したことがある人が多い。

スポーツセンター利用者

- 回答者476人のうち、今後新しくやってみたいスポーツ（複数回答可）として「eスポーツ」を選択した人は15人（約3%）。
- 回答者全体の属性と比較して、男性が多い傾向にある。

小学生・中学生

【小学生】

- 回答者538人のうち、今後新しくやってみたいスポーツ（複数回答可）として「eスポーツ」を選択した人は30人（約5.6%）。
- 回答者全体の属性と比較して、男性が多い傾向にある。
- 回答者の全員が、現在行っているスポーツについて、選手を目指して本格的に続けていきたいと回答しており、本格的な競技としてではないeスポーツの実施を求めている回答者が多いと考えられる。

【中学生】

- 回答者449人のうち、今後新しくやってみたいスポーツ（複数回答可）として「eスポーツ」を選択した人は27人（約6%）。
- 回答者全体の属性と比較して、男性が多い傾向にある。

eスポーツ等に関する検討～スポーツセンターでの実施可能性～

eスポーツ等に関してスポーツセンターが担う役割

●戸田市スポーツセンター設置条例

市民の体育、スポーツ及びレクリエーションの振興を図るために、戸田市スポーツセンターを設置する。

- ① スポーツ施設としての共通する設備（更衣設備、広い屋内空間）の活用が期待される事業
- ② より広い市民へ、スポーツに触れ、つながり、楽しめる契機を提供できるような事業

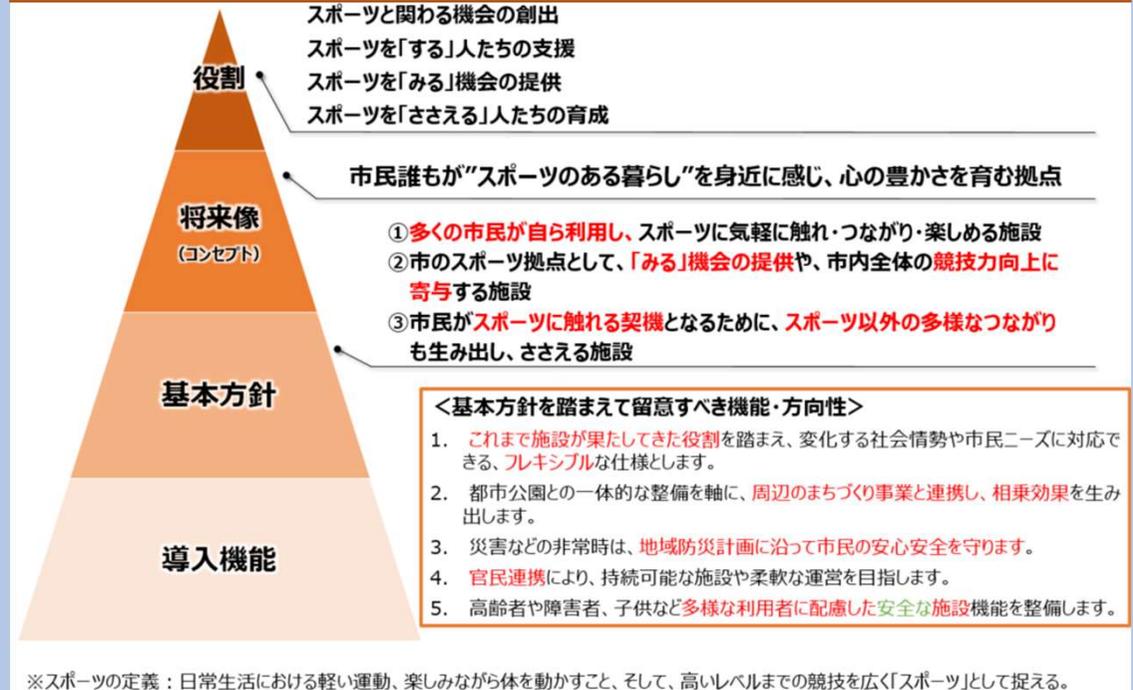
実際の身体的動作を求めるeスポーツの環境整備

戸田市の特徴を踏まえた施策展開

具体的取組案

- ① ローイングエルゴメーターの導入
- ② 気軽にゲーム感覚でローイングを体験できる環境整備（モニターやオンライン環境の充実）

戸田市スポーツセンター基本構想 コンセプトと基本方針



『Virtual Rowing - バーチャルローイング』
JSC x World Rowing プロモーションビデオ
(動画提供：独立行政法人日本スポーツ振興センター)

eスポーツに関する検討～必要設備等諸条件～

バーチャルインドアローイングに必要な設備等

- ①ローイングエルゴメーター
- ②モニターなど周辺機器
- ③ネットワーク環境
(大会利用などでは、大容量高速通信環境が必要)



想定される利用と期待される効果

【トレーニングスペースに設置（ローイングエルゴメーター）】

- ①トレーニング機器としての利用（トレーニー対象、高負荷設定）
⇒トレーニング機器として一般ジムなどでの普及状況を踏まえた施設機能の充実
- ②中学校の部活動での利用（市内中学生対象、ボート部以外のトレーニングなど）

【オープンスペースやコミュニティスペース等に設置（シミュレーションモニターなども含めた設備を想定）】

- ③eスポーツの手軽さを活かした体験スペース等での利用（一般市民（特に児童生徒）対象、VR）
⇒気軽に幼少期から楽しくローイングを体験できることによる、市内における競技認知度の継続的な向上
- ④高齢者の健康維持やリハビリテーションでの利用（低負荷設定）
⇒障害者、高齢者、リハビリ目的や普段運動をしない層の運動習慣の定着など、低負荷運動のニーズに対応

【その他（イベントなどで利用）】

- ⑤インドアローイング大会、バーチャルインドアローイング大会での利用（競技者対象、ネットワーク環境必要、モニターなど）
⇒ローイング競技の普及・定着、市外含む利用者拡大、イベントによる賑わいやコミュニティの創出